



▲ S-Gallery 肅榮寶美術館 笠井誠一展にて 2025年5月3日、笠井誠一先生と卯野和宏

表現者、それぞれの道

絵の世界展

9月10日(水)～10月13日(月) 10:00～12:00 (入館は11:30まで)
13:15～17:00 (入館は16:30まで)

休館日：月・火曜日、9月17日(水)、24日(水)
※9月15日(月)、23日(火)は開館

入館料：330円 18歳未満、65歳以上は無料 (年齢が確認できるものを提示)
各種障がい者手帳をお持ちの方と付き添い1名無料

主催：境町 企画：境町アートプロジェクト
協力：学校法人 瓜生山学園 京都芸術大学 通信教育課程

S-Gallery 肅榮寶美術館にて開催された笠井誠一展(2025年4月9日～5月6日)で境町に多大なるご協力をいただいた笠井誠一先生が6月12日に老衰によりご自宅で逝去されました。5月3日にご来館いただいた日は笠井先生の93歳の誕生日の日でした。いつ寿命が尽きてもおかしくない状況であることをご家族から事前に伺っていましたが、笠井先生ご自身の「作家が生きているのに自分の展覧会に足を運べない事ほど恥ずかしいことはない」との強いお考えにより、ご来館が実現することとなりました。会場に到着された笠井先生は、ゆつくりとした足取りで、ご自身の作品を一点一点しっかりとご覧になっていました。そのお姿はとても静かでしたが、視線は鋭く、画家としての力強さが漲っていた様に感じられました。

笠井誠一展にはごあいさつ文として境町アートプロジェクトより以下の言葉を寄せました。
「卓上に配された楽器、日用品、果物などのモチーフを描く画家・笠井誠一にとって、絵画とはどのような存在なのか。本展では、笠井によって書き綴られた絵画への情熱と思考の軌跡と共に、フランス留学時代の1960年から2023年までの作品20点を一同に並べ、笠井が追い求めた絵画の世界に迫ります。皆さまにとって絵画とは何か、絵画の魅力とは何かを再発見する機会になりましたら幸いです。」
笠井先生は生涯を通して一貫して絵画に全身全霊を尽くした方でした。ご生前のご厚情に深く感謝いたしますとともに、謹んで哀悼の意を表します。S-Gallery 肅榮寶美術館の笠井誠一展の会期中にご紹介していた、笠井先生の動画を改めてご紹介いたします。2022年に90歳を記念して撮影された1時間46分22秒の動画です。笠井先生の絵画とその情熱は私たちのこれからの道にも大きな気づきを与えてくれると思います。ぜひご視聴ください。

画家 笠井誠一
「今、伝えておきたいこと」



番外編
「日本美術について」



©Youtube アトリエマハちゃんねる

information ▶
SAKAI ART project

「卯野和宏 第19回アヴニール展」
期間：9月25日～10月4日
会場：春風洞画廊
(東京都中央区日本橋3-8-10)

笠井誠一 かいせい せい いち 略歴
1932年(0歳) 現在の北海道札幌市に生まれる
1949年(17歳) 画家を志し、単身上京する
1959年(27歳) 東京藝術大学美術学部専攻科修了、渡仏帰国
1966年(34歳) 愛知県立芸術大学講師となる
1967年(35歳) 愛知県立芸術大学教授となる
1974年(42歳) 愛知県立芸術大学を定年退官し、愛知県立芸術大学名誉教授となる
1998年(66歳) 《一つの卓上静物》で第24回安田火災東郷青児美術賞を受賞
2001年(69歳) 笠井誠一画集「が求龍堂から出版される」
2011年(79歳) 《笠井誠一展「形の世界」》が練馬区立美術館で開催される
2018年(86歳) 《笠井誠一展「がS-Gallery 肅榮宝美術館で開催される」》
2025年(93歳) 5月3日来館、6月12日逝去



俳句

令和七年七月 境町文化協会俳句部

兼題 「炎天・夕顔」 他当季雑誌

兼題解説

「炎天」

※真夏の強い日差しが照りつける空を指す季語で特に晩夏に使用されることが多く、焼け付くような暑さや陽炎が見えるような幻想的な光景を表現しています。

「夕顔」

※夕顔は夕暮れにほの白い花を開き、その花は翌朝にはしぼむ。花のあとには丸い大きな薄緑色の実を結び、この実から干瓢ができる。

炎天や鳥もひっそり木蔭かな
炎天や番犬飽かず穴を掘る
炎天をにらみ蛇口の水飲む子
炎天や平和の祈り沖縄忌
炎天やだれも無口の飯処
炎天や野良の帽子の赤リボン
炎天や球児のプレー 神宿る
炎天の露店の主人濡れタオル
グラウンドに歓声上がる炎天下
大輪の夕顔咲いて主待つ
夕顔やモグラ塚有る畑かな
夕顔や主逝きしを知らず咲き
夕顔の横を子猫はそっと行き
夕顔や咲きし鮮やぐ野畑に
夕顔を妻と眺めつ夜も更けて

(鈴木) むりき
(川邊) 光夫
(高塚) 香こ
(印出井) 慶子
(渡辺) 久子
(田村) 正子
(渡辺) 晴美
(和田) 雄節
(古谷野) 信子
(中嶋) きよ乃
(高橋) 春年
(中村) 仁
(石塚) 芙蓉
(大岡) 幸子
(柿沼) 学

短歌

青々と草花伸びる姿見て過ぎた季節の早さ驚く

猛烈な暑さに耐えて日が沈み虫の音聞こえて心和ます

萩の花来る風に乗りふわふわと遊び心が我も芽生える

日曜版のクロスワードを解くたびに競いし朋の亡きぞ寂しき

裏庭のすすきの花穂切り取りて供えし待てり十五夜の月

ひぐらしの声も聞こえず打ち水を暑き夕暮れ汗をふきつつ

秋空に夜の帳がおりる頃虫の音色に耳をすませる

蝉すだく声も聞かれず暑き夏澄みし青空秋の気配に

青い空柿の葉そよぎ風さわぐ狭庭に立ちて盛夏楽しむ

朝々に風騒がしく吹く庭に萩の若枝さわめきおどる



夕顔やあまた咲けどもみな無口

夕顔や割烹着の妻出陣す

夕顔の白き大花や夕涼し

夕暮れや夕顔の花白く浮き

(宇野) ひろこ
(鹿久保) 喜一
(落合) すみ子
(前田) 妙子

境短歌会 山鳩

川上京子

川上京子

川村米子

古谷野信子

斉藤敬子

桜井レイ

五月女三枝子

鈴木喜興子

松岡美智子

本島イト子

広告枠